学校登山プログラム

ルート2

諭鶴羽ダム→裏参道→山頂→諭鶴羽神社→近畿自然歩道→灘黒岩

どんぐり探しと木の肌（樹皮）の観察と活動で諭鶴羽（ゆづるは）山の人と自然の関わりが楽しく学べる

1本の木から何本も枝が出ている木見つけた？？（⑫）

木は再生できるんだね。でも、何度も伐りすぎたら枯れてしまうよ。昔の人はそれを知ってうまく自然を利用していたんだね。

登っている途中もたくさんあるよ。神社の裏の木と違いはあるかな？

カゴ（鹿子）ノキの木の肌はおもしろい♪（②）

まずは観察しよう

諭鶴羽山にもいるバンビ（**鹿（しか）の子**）**の模様（もよう）と似ている**。それが名前の由来です。

カゴノキパズルをやってみよう！（⑦）

はがれおちた樹皮（じゅひ）を手がかりに、はがれた場所にはめこもう

丸い形の石組発見！（⑩）

正体は、この地域で行われていた**炭焼き（すみや）のかま**のあと。炭にすると水が抜けて軽くなるから、諭鶴羽山では、山で炭にしてから里に持ち帰っていたんだって。

炭の木と炭窯（すみがま）の関係（⑫）

あみあみ模様のどんぐりの木は、**ウバメガシ**と言います。人が切ったあと見つけた？みんなはバーベキューで炭を見たことがある？昔の人は、この炭を使ってごはんをたいたりしていました。このウバメガシという木は、炭としてとってもすぐれています。かたくて火が長持ちするから。近くに炭窯跡（あと）を見つけたかな？きっとここで昔の人はウバメガシを炭にしていたんだろうね。

山頂から海と陸側の景色を眺めてみよう（⑧）

海まで遠い
家の数多い
傾斜（けいしゃ）ゆるやか
平野ある

海まで近い
家の数少ない
傾斜急
平野ない

マツボックリとたおれた木からわかる森の変化（⑤）

たおれた木の正体は、その近くにたくさんあるマツボックリの木。「**アカマツ**」という木だよ。この木が生きていた50年前くらいは、ここはアカマツの森でした。今は、うろこ模様のどんぐりの森。昔の諭鶴羽山は今と違う様子だったんだよ。

「諭鶴羽山学校登山セルフガイド2：裏参道～山頂～近畿自然歩道ルート」（景観ストラテジーブック⑧-2）

2015年8月1日改定版
（2015年2月17日初版発行）

坂尾千恵・藤原道郎 fujihara@awaji.ac.jp
〒656-1726 淡路市野島常盤954-2
兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科／淡路景観園芸学校